

# 令和4年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導	自主的に学習するための課題を提供し、学習習慣の確立および基礎学力の向上をはかる。	生徒の取り組みに関しては、88.9%の教員が適切に課題を提供しており、76.2%の生徒が学習課題に取り組み、提出できたと答えている。また、80.9%の保護者が家庭でも学習課題に、しっかり取り組んだとの回答をいただいております。自主的に学習する習慣ができてきている。いずれも目標を達成しておりほとんどの生徒が学習習慣の確立はなされているものと思われる。しかし一部の生徒については不十分であり今後ともしっかりとした取り組みが必要である。	課題の提供および取り組み状況は満足のいくものであるが、それらの観点別評価への対応について教科ごとの取り組みや課題の内容を検討し3観点育成に対応した適切な課題の提供が必要がある。 また基礎学力の向上に関してはクラス内での個人差が著しいため、家庭と連携した個別指導を行う必要があると思われる。
	アクティブ・ラーニング型の授業および探究的な学習を通して、学習に対する興味・関心・意欲を高める。	アクティブラーニング型の授業および探究的な学習の実践については、77.8%の教員が「十分に」または「ある程度」実践できたと答えており、「グループ学習等で、学習意欲が高まった」と答えた生徒の割合は、71.4%でいずれも目標を達成している。今後とも生徒の状況や特性に応じて工夫しながら取り組んでいく必要がある。	主体的・対話的で深い学びの観点からさらに日々の学習への取り組みを工夫していく必要がある。特に総合的な探究の時間の充実を図り課題の設定からまとめ発表まで生徒主体で取り組んでいきたい。 また、特別活動や課外活動と連携し様々な経験や取り組みを行う中で、自己肯定感や非認知的能力
生徒指導	生徒会行事に主体的に取り組ませることを通じて、学校生活の充実を目指す。	生徒会が主体となって学校行事の企画・運営をする体制づくり、環境づくりに努めた。 生徒会行事の取り組みについて、進んで取り組むことができたという生徒が81.0%、活動が充実していると感じている生徒は、95.2%おり、生徒主体の充実した内容を実施することができたと考えている。 生徒の安全・安心・健康を保つための学習環境づくりにも全職員で努めたことが良かった。 現状に満足することなく、今後も少人数でどのような活動ができるか臨機応変に対応しながら、一人ひとりが充実感を感じる学校行事となるよう様々な	引き続き、生徒会執行部の活動を通してリーダーシップを持った生徒を育てること、生徒が積極的に活動に参加できるような雰囲気作り、環境づくりに努めたい。 コロナ禍終息を見据え、本年度の取り組みを基に新たな工夫を取り入れながら、活動準備等に余裕を持って取り組ませる。また、一人ひとりの役割分担を明確にして責任感を養い、充実した活動を目指す。 生徒の意見や要望を吸い上げ、生徒自身が興味・関心を強く持てる内容を企画運営する行事を増やしたい。また学校生活の充実や自律する力の
	講演会やボランティア活動を通して、自分自身の生き方や自他の尊重について考えさせる。	講演会やボランティアへの満足度は、保護者が85.7%、また生徒の満足度も同じく85.7%とたいへん高い数値を達成することができた。 今年度は外部講師を招聘した活動として、警察関係者によるSNS講演会と、NPO代表による被災者支援ボランティアを実施することができた。 社会状況が大きく変化している今こそ、効果的な活動を通して自身の生き方をみつめ、自他を尊重する態度を身につけることが求められている。	引き続き、自他を共に大切にし、尊重する態度を育てることを目標にしていきたい。 ボランティア活動については、生徒自身が活動内容を考える機会を設け、活動の意義について確認できるようにする。また、地域の各ボランティア関係者と連絡を取り合い、生徒への効果的な助言を得られる機会を増やしたい。 自身の生き方について考えさせるような講演会や活動についても企画していきたい。
進路指導	進路に関する行事を通して職業意識の啓発に努め、自らの進路について考えさせる。	主体的に進路選択をする能力を育成するために、全学年を対象に6月と11月に進路ガイダンスを実施した。進路講話や職業講話を聞かせたり、分野別毎に講師からレクチャーを聞かせた。業者（さんぽう）と打ち合わせを重ねたり、学校が講師を手配したりして、少しでも生徒のニーズに近いガイダンス実施に努めた。 年度末の生徒アンケートでは、自分の進路について考えるようになったと答えた生徒は96.2%と高評価だった。年2回のガイダンス実施は有効だと考える。保護者アンケートでは満足度が76.2で目標数値	本年度は進路ガイダンスは2回実施できた。特に、1・2年生に対しては2回実施することが進路意識の向上につながると考える。3・4年生では今後も実践的な内容で実施することによって、生徒の就職活動が充実するように支援したいと考えている。担任教諭、外部機関と連携し、生徒の実態や進路希望に合わせてガイダンスの内容を適宜検討しながら充実した行事として継続実施していきたい。
	将来に役立つ資格の取得を目標とし、少なくとも1つの資格に挑戦する。	全学年生徒が「日本語検定」受験に向けての学習に取り組んだ。合格率（認定+準認定）は、5級（1年）80%、4級（2年）75%、3級（3・4年）50%であった。問題のレベルが上がる3級の合格率が低かったため、生徒の学力に配慮した学習方法を考える必要がある。	資格取得に対する意欲の高い生徒が増えてきている。生徒の取り組み状況も良好であり、レベルの高い受験級の合格率を上げるために、互いに学び合う学習環境提供を継続していきたい。 また、漢字検定や英語検定なども紹介し、さらなる資格取得を促していきたい。